

～運輸と観光で九州の元気を創ります～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日（祝・祭日の場合は翌日）にお届けしています。

次回の定期発行日は平成 29 年 12 月 7 日（木）です。

◆ 目次

1 現場レポート

- ・伊万里港開港 50 周年記念事業「伊万里みなと祭り 2017」が開催されました～九州第 4 位のコンテナ取扱港を PR～
- ・北九州市立大学において「物流講座」を開設しました～「物流産業の現状と物流政策」に関する講義を実施～
- ・過積載違反の街頭取締りを実施しました～過積載絶滅を目指して！～
- ・鹿児島において「物流に関する意見交換会」を開催しました～荷主、物流事業者、行政により、物流の課題や改善方策等を意見交換～
- ・フェリー車両甲板での火災を想定した消防訓練を実施しました
- ・「バリアフリー教室」及び「バリアフリー講習会」を開催
- ・『交通エコロジー教室』を開催しました！～環境にやさしい公共交通を利用するきっかけに～

2 お知らせ

- ・佐賀市で「トラック運送業における生産性向上セミナー」を開催します
- ・「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を実施します

3 投稿の間

《取組紹介》

- ・マルエーフェリー（株）：マルエーグループ安全大会を開催しました

《イベント案内》

- ・杵築市観光協会：～六郷満山開山 1300 年記念 寺院ライトアップ&特別イベント～『八幡奈多宮ライトアップと三神像特別公開・杵築城太鼓演奏』について
- ・あさくら観光協会：九州北部豪雨からの復旧・復興に頑張っています！

4 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

1 現場レポート

◆伊万里港開港 50 周年記念事業「伊万里みなと祭り 2017」が開催されました～九州第 4 位のコンテナ取扱港を PR～

◎伊万里港開港 50 周年記念事業実行委員会（会長：山口祥義 佐賀県知事）は、11 月 3 日（金）から 4 日（土）にかけて、伊万里港開港 50 年の歴史を振り返るとともに、伊万里港の更なる発展に向けて、「伊万里みなと祭り 2017」を開催しました。

◇概要

- ・1967年に開港指定を受け国際貿易を開始して以来50周年を記念した事業
- ・佐賀運輸支局は実行委員として参画
- ・「伊万里みなと祭り」に先立ち、9月23日（土）に伊万里港の歴史を振り返りつつ、これからの伊万里港を考えるための「伊万里港シンポジウム」を開催
- ・「伊万里みなと祭り」では、会場を七つ島地区と久原地区に分けて、帆船「日本丸」（所属：独立行政法人海技教育機構）や「みらいへ」（所属：一般社団法人グローバル人材育成推進機構）によるクルージング・セイルトレーニング体験や企業PR、造船所・コンテナターミナルの見学、海上自衛隊や海上保安部による船内見学、コンテナへのプロジェクトマップングといった海事産業のPRを実施

◇内容

佐賀運輸支局は海事産業へ親しみを持ってもらうため企業PRコーナーにブースを設置し、パンフレットやペーパークラフト、掲示したポスター等により内航海運業や旅客船航路等の海事産業や運輸局行政についてのPRを行いました。

◇九州運輸局からのメッセージ

- ・11月3日と4日は、佐賀市で「2017佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」、唐津市で「唐津くんち」が開催され、佐賀県内が大賑わいとなる中、「伊万里みなと祭り」会場にも、多くの来場者がいらっしやいました。
 - ・3日は天候に恵まれた反面、4日は風が強く、一部プログラムが省略されましたが、多くのプログラムを予定どおり実施することができ、来場者に海事産業へ親しみを感じていただくことができたのではないのでしょうか。
 - ・佐賀運輸支局のブースでも、予想より多くの方にお集まりいただき、広報グッズの配布や掲示したポスター等による周知活動を行い、広く海事産業の魅力や重要性をお伝えできたと感じています。
 - ・海運業、造船業などの海事産業が盛んな九州にとって、海事産業を担う次世代の人材を確保していくことは非常に重要な課題となっています。まずは、海事産業に関心を持っていただくために、大人・子供問わず広く知っていただけるよう、機会を捉えて今後とも積極的にPR活動を実施してまいります。
- （佐賀運輸支局（唐津庁舎））

◇「伊万里みなと祭り2017」の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_1.pdf

◆北九州市立大学において「物流講座」を開設しました
～「物流産業の現状と物流政策」に関する講義を実施～

◎九州運輸局では、11月8日に北九州市立大学（福岡県北九州市小倉南区）において、同大学地域戦略研究所田中特任准教授の協力を得て、同大学の学生を対象に「物流講座」を開設しました。

◇概要

・「物流講座」では、環境・物流課職員から、学内の各学部から受講希望のあった学生16名に対して、「物流産業の現状と物流政策」に関する講義を行いました。

◇内容

・「物流」は、我が国の産業の持続的な成長と豊かな国民生活を支えていくためには必要不可欠な産業であり、その役割は今後ますます重要になる一方で、少子高齢化に伴う労働力不足が大きな課題となっている現状にあります。国土交通省では、物流の現況、課題の軽減、解消に向けたモーダルシフトや路線バスを利用した貨客混載、過疎地における持続的な物流維持の取り組みなど、物流の効率化、省力化に向けた政策について大学の講義の中で紹介しました。

・その他訪日外国人の増加に伴う宅配サービスを活用した「手ぶら観光」の取り組みや災害時における支援物資の円滑な輸送を確保するための対応などについても実際の事例を交えながら紹介しました。

◇九州運輸局からのメッセージ

・受講した学生に対するアンケートでは、「物流に対するイメージは変わりましたか？」との問いかけに変わったと答えた学生がほとんどでした。その内容として「物流といわれて思い浮かぶものは宅配サービスだったが、災害時の物資輸送や手ぶら観光サービスなどの視点から物流を捉えることができた」「物流産業が担う役割が想像以上に大きかった」「物流はモノを運ぶだけでなく環境や効率化、観光についても対策が必要であることを知った」「再配達でかなりの無駄な労働力、CO2が発生しているのがわかり、受け取る側にも責任があり今後在宅する時間に配達指定するなど気をつけようと思った」「自分なりに物流を勉強していきたい」といった意見が数多く寄せられ、「物流」の重要性や役割への理解に、高い関心を持っていただくことができたのではないかと考えています。これからも将来の就職先として物流業界を選択していただけるよう、お手伝いできればと考えています。

・九州運輸局としては、今後とも人手不足にも負けない便利で優しい物流の実現を目指して、さまざまな物流政策を行っていきたくと考えています。

(交通政策部 環境・物流課)

◇「物流講座」の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_2.pdf

◆過積載違反の街頭取締りを実施しました

～過積載絶滅を目指して！～

◎福岡運輸支局は、11月8日(水)に国道3号線原田車両検査場(筑紫野市原田)で、福岡国道事務所や筑紫野警察署、福岡県トラック協会など関係機関と合同で過積載違反の街頭取締りを行いました。

◇街頭取締りの内容等詳細は、こちらからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_3.pdf

◇過積載防止に係る広報・啓発用ポスター及びリーフレットは、こちらからご覧ください。

<ポスター>

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_4.pdf

<リーフレット>

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_5.pdf

◆鹿児島において「物流に関する意見交換会」を開催しました
～荷主、物流事業者、行政により、物流の課題や改善方策等を意見交換～

◎九州運輸局及び鹿児島県は、11月9日（木）に鹿児島県庁（鹿児島市）において、「物流に関する意見交換会」を共催しました。

◇概要

荷主企業や各輸送モードの物流関係団体及び事業者（トラック輸送、鉄道輸送、海上輸送）、物流施策を推進する行政機関（九州運輸局及び鹿児島県）約50名が一堂に会して、物流を取り巻く情勢や鹿児島県における物流の現状とあわせて、各輸送モードが抱える課題の軽減や物流サービスの改善、利便性の向上に資する意見交換を行いました。この意見交換会は昨年11月2日に1回目を開催、今回が2回目の開催となります。

◇内容

<行政からの説明>

- ・九州運輸局：「物流の効率化に向けた施策及び支援制度について」「中・長距離フェリー、RORO 船航路情報サイトについて」
- ・鹿児島運輸支局：トラック運送事業における取引環境・労働時間の改善について

<各輸送モードの状況（現状・課題・取組等）の説明>

- ・鹿児島県トラック協会：トラック運送事業におけるモーダルシフトの現状と物流効率化の取組み
- ・フェリーさんふらわあ：輸送サービスの拡充と今後の取組み
- ・マルエーフェリー：フェリー、内航海運の航路の紹介
- ・日本貨物鉄道：鉄道コンテナ輸送の紹介

<意見交換>

- ・物流効率化・モーダルシフトの促進に向けた取組について
- ・コンプライアンスの遵守のための労働力確保の取組について
- ・発着貨物のバランス不均衡や季節変動への対応の取組について
- ・緊急時・災害時に備えた取組について

◇九州運輸局からのメッセージ

・昨今、二酸化炭素排出量の削減、交通渋滞などの環境問題、トラック運送事業者の労働力不足や運転者の長時間労働、物流の効率化などの観点から、幹線輸送を自動車（トラック）から鉄道輸送や海上輸送へ転換（モーダルシフト）することが重要な課題となっており、中でもトラックドライバーの不足への対応策の一つとしてモーダルシフトへの関心が高まっています。

・しかしながら、モーダルシフトの推進に向けては、輸送モードが複数に渡っており容易に検討が進んでおらず、また、異なる業種間での相互の交流の機会も少ないのが現状となっています。

・そこで、安定的かつ安全に物流サービスを提供できる物流体制を維持、確保する観点から、荷主企業や各輸送モードの物流関係団体及び事業者、行政機関が一堂に会して、それぞれの立場から顕在化している課題、改善方策や利用促進に向けた取り組み等について意見交換を行い、現状や課題の共有、連携の強化を図りました。

・九州運輸局及び鹿児島県では、各輸送モードが抱える課題の軽減や物流サービスの改善、利便性の向上に向けて、今後も継続的に開催していきたいと考えています。

（交通政策部 環境・物流課）

◇「物流に関する意見交換会」の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_6.pdf

◆フェリー車両甲板での火災を想定した消防訓練を実施しました

◎福岡運輸支局と若松海事事務所は、11月15日（水）にフェリー事業者ほか関係機関と連携し、オーシャントランス（株）「フェリーしまんと」C甲板（北九州市門司区新門司）で「関門地区旅客船合同消防訓練」を開催しました。

◇概要

- ・主催者：福岡運輸支局、若松海事事務所、北九州市消防局門司消防署、関門地区旅客船協会の合同主催
- ・参加者：関門地区フェリー事業者等の船員、運航管理者、関係者 50名

◇内容

- ・主催者挨拶：福岡運輸支局次長 池田伸広
- ・開始挨拶：北九州市消防局門司消防署警防課 消防指令 安田 英信
- ・消防訓練講話：「フラッシュオーバー及びバックドラフト」講師 北九州市消防局門司消防署
- ・消防訓練実技
- ①水消火器の取扱い訓練
- ②ホース延長訓練（二重巻き、島田巻き）及び島田作成
- ③放水訓練
- ④防火服取扱い及び空気呼吸器取扱い訓練
- ⑤スクープストレッチャー取扱い訓練
- ・講評：北九州市消防局門司消防署警防課 消防指令 安田 英信
- ・閉会

◇九州運輸局からのメッセージ

・車両甲板等障害物が多い場所では、通常設置している二重巻きホースと比べより小回りの効くホース延伸の方法である島田巻き（写真参照）を活用したホース延伸訓練を消防署指導のもと実施しました。会社の中には二重巻きのホースしか設置していないところもあり、参加した船員からは「自社にも取り入れたい」との声がありました。

・防火服の着用訓練は、着用までにかかる時間を計ることで各自、具体的な目標を持つことができます。消防署の講師によれば1分以内に着用できるようになれば十分だそうです。着用の早い船員さんでも1分30秒程度かかってしまいます。消防士さんの中には10秒で着用される方もいらっしゃるそうです。

・訓練を終えて、参加者からは「非常に有意義な訓練だった」との声が多数聞かれました。今後も、管内全ての旅客船事業者が万一の有事における迅速な対応構築に向け、各関係機関と連携、情報共有により、訓練のレベルアップを図りながら、事業関係者の消防体制の強化に取り組んでまいります。

（福岡運輸支局（門司港庁舎）・若松海事事務所）

◇消防訓練の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーをご覧ください。

◆「バリアフリー教室」及び「バリアフリー講習会」を開催

◎九州運輸局は佐賀市交通局、(福)佐賀市社会福祉協議会、クローバーの会、西日本鉄道(株)の協力のもと、11月10日(金)佐賀市立東与賀小学校(佐賀市東与賀町)4年生78名を対象に、11月11日(土)福岡市立城浜小学校(福岡市東区城浜団地)4年生15名を対象とした「バリアフリー教室」を開催しました。

また、(公財)九州運輸振興センターとの共催及び、(公財)エコロジーモビリティ財団、福岡県介護福祉士会、福岡市の協力のもと、11月16日(木)博多ふ頭第2フェリーターミナルにて、旅客航路従事者を対象とした「バリアフリー講習会 in 博多港」を開催しました。

◇概要

九州運輸局では、誰もが高齢者・障害者等に対し「お手伝いしましょうか」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指しています。その一環として、市民の方々に高齢者・障害者等の疑似・介助体験を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識の向上を図るため、各地で「バリアフリー教室」並びに「バリアフリー講習会」等を開催しています。

◇内容

<バリアフリー教室 in 東与賀小>

・クローバーの会の指導のもと、視野を狭くするゴーグルと肘や膝を曲がりにくくするサポーターなどを着用したままバスの乗り降りやペットボトルのふたを開け水を飲む高齢者疑似体験及びアイマスクを着用した視覚障害者疑似体験、車いす体験を実施。

・佐賀市交通局講師によるバスのしくみや乗り方の説明及び車いすのバス乗降実演等を実施。

<バリアフリー教室 in 城浜小>

・九州運輸局職員の指導で、車いすの体験、介助体験及びアイマスクを着用した視覚障がい者疑似体験を実施。

・西日本鉄道(株)講師によるバスのしくみや乗り方の説明及び車いすのバス乗降実演等を実施。

「バリアフリー講習会 in 博多港」

・(公財)エコモ財団講師によるバリアフリー制度及び高齢者・障がい者への接遇・介助に当たっての心構え等の講義。障がい当事者の生の声を聞くことにより、業務への気づきを促す直接対話による質疑応答形式の講義を実施。

・介護福祉士会講師の指導のもと、ターミナル内において車いす体験及び高齢者疑似体験の体験実習を実施。

◇九州運輸局からのメッセージ

・この講習会及び教室では、高齢者、障がい者の日常生活や社会生活における困難な状況を受講生が、自らの問題として認識していただくことに主眼を置いて実施しています。

・開催後のアンケートでは、小学生から、「体の不自由な方の大変さがわかった」「これから、身の回りに困っている人がいたら助けてあげたいと思った」、旅客航路従事者からは、「エレベーターの設置などハード面だけでなく気づきや声かけな

どのソフト面が充実しないとバリアフリーの実現は難しいことが分かった」などの感想をいただき、所期の目標が達成できたと感じています。

・今後も九州運輸局では、このような取り組みを通じて、誰にでも自然に声かけができる「心のバリアフリー」社会の実現を目指してまいります。

(交通政策部 消費者行政・情報課)

◇「バリアフリー講習会」及び「バリアフリー教室」の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーをご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_8.pdf

◆『交通エコロジー教室』を開催しました！

～環境にやさしい公共交通を利用するきっかけに～

◎九州運輸局では、9月から11月にかけて、小学校高学年の児童を対象とした「交通エコロジー教室」を開催しました。この教室は、電車・バス・車などの乗り物を通して地球温暖化を学ぶことを目的として毎年開催しているもので、今年度は北九州市2校、佐世保市1校、鹿児島市2校の計5校で実施し、305名の児童が参加しました。

◇内容

・交通エコロジー教室は、「バスや電車に乗って地球の温だん化をふせごう」と題して、「地球温だん化のメカニズム」「わたしたちの暮らしへの影響」「自分たちにできることは何か」など小学生にもわかりやすい内容で構成し、授業を行いました。また、鹿児島市の小学校では、環境問題のエキスパートである福岡大学の浅野直人名誉教授により授業を行いました。

・講義のあとは、開催地の北九州市温暖化対策課、佐世保市環境保全課、鹿児島市再生可能エネルギー推進課、かごしま環境未来財団のご協力をいただき、環境性能に優れた燃料電池自動車（FCV車）や電気自動車（EV車）を学校に持ち込み、環境にやさしい次世代自動車の説明や見学、乗車体験を行いました。

◇九州運輸局からのメッセージ

・本教室は、交通分野の視点から環境教育を行い、環境にやさしい公共交通機関の利用など自分たちにできることを学んでもらうことを目的に、また、授業の内容を家庭で話題にすることで問題意識の波及も期待して開催しているものです。

・開催後のアンケートでは、「もっとバスや電車を利用しようと思う」「使わない照明は消す」「今すぐにでも自分ができることやりたい」などの感想が多数寄せられるなど、環境負荷の小さな交通体系を支える意識の醸成を図ることができたものと考えています。

・九州運輸局では、これからも子供たちに地球環境に関する問題意識をもってもらい、「地球を守るために自分たちがなにをすべきか」を学習し、実践してもらうため、引き続き環境教育に取り組んでまいります。

(交通政策部 環境・物流課)

◇交通エコロジー教室の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーをご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_9.pdf

◆佐賀市で「トラック運送業における生産性向上セミナー」を開催します

九州運輸局では、長時間労働やドライバー不足が深刻化する中、トラック運送事業の働き方改革を進めるため、取引環境の適正化や生産性の向上に向けた取組みを推進しております。

今般、トラック運送事業者が荷主企業とも連携した取組が一層促進されるよう、(公社)佐賀県トラック協会と共催で「生産性向上セミナー」を開催します。

本取組については、広範な関係者に対して普及啓発を図っておりますので、関係者の方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成 29 年 11 月 28 日（火）13 時 30 分～16 時 30 分

開催場所：(公社)佐賀県トラック協会研修会館（佐賀市高木瀬西 3-1-20）

セミナーのお申込み方法や内容等詳細は、こちらからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_10.pdf

（自動車交通部 貨物課）

◆「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を実施します

九州運輸局では、平成 29 年 12 月 10 日（日）～平成 30 年 1 月 10 日（水）にかけて、年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施を予定しています。

安全総点検の詳細については国土交通省ホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo04_hh_000015.html

各交通事業者への立入り点検等の九州運輸局の取組みについては次号のメールマガジンにてお知らせする予定です。

（総務部 安全防災・危機管理調整官）

3 投稿の間

《取組紹介》

◆マルエーフェリー（株）：マルエーグループ安全大会を開催しました

◇内容

平成 29 年 11 月 14 日 18 時、マルエーグループの社員 218 名が「フェリーあけぼの」の車両甲板に集まり、昨年に続き 2 度目の「安全大会」を開催しました。冒頭、大会会長であるマルエーフェリーの有村社長から「過去の重大事故事例に触れ、これらを教訓として安全意識のレベルアップをグループとして取り組んできた。各人・各セクションは、毎年、安全管理に関して、ここが前年よりスパイラルアップしたと明確に言えるように取り組んで貰いたい。我々の目標は、各人自らが高度な危険予知能力を身に着け、全ての危険を「排除」することである。マルエーグループ全ての職員は法令を遵守し、危険からお客さんを守り、仲間を守り、そして自分を守り抜かなくてはならない」との力強い挨拶に始まり、事故の未然防止や体の不自由なお客様への手配を積極的に行っている等の功績があったグループ企業 5 社、10 名の社員を表彰しました。

指差し呼称の唱和では、泉運航管理者の指導により各社の代表がモデル実演し、全員が起立して実施すると熱気にあふれ最高潮に達しました。大会記念品の「マルエーグループ安全大会」のロゴ入りタオルをグループ会社を代表して奄美海運の迫田

社長が受取り、参加者に披露しました。第一海運の木幡専務から「今年は係留作業時の労災事故が多発した。再発防止に向けてグループ全体で取り組もう」との趣旨の大会宣言が発せられ、大きな拍手により採択。最後に第一海運の西田社長から「運送業界にとっては、事故を起こさないということが企業最大の宿命だ。グループ企業の全社員の安全スキルをブラッシュアップして、高いレベルの安全管理体制を目指そう」との言葉で大会を締めくくりました。

マルエーグループの団結力を感じる熱気あふれる大会となりました。来年も盛大に開催することを約束しながら全員で後片づけをして帰路につきました。

◇「安全大会」の様子は、こちらのフォトライブラリーをご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_11.pdf

----- 《イベント案内》 -----

◆杵築市観光協会：～六郷満山開山 1300 年記念 寺院ライトアップ&特別イベント～

『八幡奈多宮ライトアップと三神像特別公開・杵築城太鼓演奏』について

八幡奈多宮（大分県杵築市奈多）にて、六郷満山開山 1300 年記念 寺院ライトアップ&特別イベントの一つとして『寺社ライトアップ』と『三神像特別公開』、『杵築城太鼓による奉納演奏』が開催されます。

美しく照らし出された奈多八幡宮と国指定重要文化財である三神像を拝観できる貴重な機会です。この機会にぜひご参拝ください。

◇八幡奈多宮ライトアップと僧形三神像公開

【内 容】荘厳な本殿のライトアップと、宇佐神宮の旧神体とされる木造僧形八幡神坐像の特別公開（国指定重要文化財）

【開催日時】平成 29 年 12 月 8 日（金）～12 月 9 日（土） 各日 17:30～20:30

【お問合せ】一般社団法人 杵築市観光協会 TEL 0978-63-0100

◇杵築城太鼓 奉納演奏

【内 容】杵築城太鼓による今回のために作曲された八幡大神に捧げるオリジナル曲の奉納演奏。演奏するには大変な訓練を要するがゆえにめったに演奏されない大迫力の「大太鼓演奏」が行われ、ライトアップに華を添えます。

【開催日時】平成 29 年 12 月 8 日（金） 19:30～

【お問合せ】一般社団法人 杵築市観光協会 TEL 0978-63-0100

◇八幡奈多宮と奈多氏 ちょこっと杵築歴史散歩第一弾

【内 容】県下最大級の古墳群や奈多城跡など、八幡奈多宮にまつわる文化財を地元ガイドと散策する「歴史探訪ウォーキングイベント」の第一弾。今回は大友氏と奈多氏との関係性や、宇佐神宮が与えた奈多宮への影響などをやさしく解説します。

【ガイド】杵築市奈多区長 木村謙次郎氏

【お問合せ】一般社団法人 杵築市観光協会 TEL 0978-63-0100

六郷満山開山 1300 年誘客キャンペーン実行委員会 TEL 0978-72-5007

六郷満山開山 1300 年公式サイト <http://www.millennium-roman.jp/rokugou1300/>

◆あさくら観光協会：九州北部豪雨からの復旧・復興に頑張っています！

◇大山祇神社『おしろい祭り』

【内容】300年～400年から行われていたといわれる大山祇神社での奇習です。新米（初穂）を水で溶いて顔に塗り、氏子の繁栄と新穀の豊作を神に感謝、来年の五穀豊穡を祈願する。おしろいのつき具合で来年の作物の出来を占います

【開催日・場所】12月2日（土） 大山祇神社（朝倉市杷木大山）

【お問合せ】道の駅 原鶴インフォメーション TEL0946-62-0334

◇軽トラ屋台市 2017 復興がんばろう朝倉

【日時・場所】12月3日（日）10時～15時 住宅型有料老人ホーム筑前梨ノ木城（筑前町弥永 1709-1）

【お問合せ】軽トラ屋台市運営委員会事務局 TEL090-4475-2307

◇九州北部豪雨チャリティプロレス『東峰村ば元気にするばい！！』

【内容】九州北部豪雨チャリティプロレスです。参加選手は、筑前りょう太・めんたい★キッド、ばってん×ぶらぶらをはじめ、佐賀武雄市出身のがばいじいちゃんも初参加します。

【日時・場所】12月10日（日）13時30分開場（14時開演）東峰学園 体育館

【お問合せ】東峰村 宝珠山庁舎 TEL0946-72-2311、小石原庁舎 TEL0946-74-2311

◇福岡雙葉学園による『クリスマスハンドベルコンサート』

【内容】福岡雙葉学園の生徒さんによる、ハンドベルのコンサートです。素敵な夜をすごしてはいかがですか？

【日時・場所】12月17日（日）13時30分開場（14時開演）筑前町めくば一

【お問合せ】筑前町生涯学習課 TEL0946-24-8762

◇夜須高原記念の森『木工教室』

【内容】子どもたちの自由な発想で素敵な作品を作りませんか？大人から子どもまで、楽しい時間を過ごしましょう！ 参加費：100円

【日時・場所】12月17日（日）10時～ 筑前町夜須高原記念の森

【お問合せ】夜須高原記念の森 TEL0946-42-0590

◇☆フルーツ狩り情報☆・・・イチゴ狩り・・・

【期間】12月中旬～5月末頃まで

【お問合せ】あさくら観光協会 TEL0946-24-6758

———— 4 九州運輸局ホームページアップ情報 —————

--- 報道発表 ---

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ ---

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 ---

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部だより //

1. 今号では、マルエーフェリー（株）様、杵築観光協会様、あさくら観光協会様から掲載記事の投稿をいただきました。ご投稿ありがとうございました。

投稿いただいた記事と九州運輸局作成記事を区分するため、投稿いただいた記事をまとめた新たなコーナー（いただいた記事は「大切に『床の間』に飾らせて（掲載させて）いただく」に掛けて）『投稿の間』に掲載させていただきました。

2. めっきり寒さが厳しくなりました。コートや手袋が必要となりいよいよ冬の到来でしょうか。気象庁の季節予報によれば、この先小春日和となる日もあって寒暖の差もありそうですので健康管理には十分気をつけたいものです。

PS 下品な話で恐縮ですが、寒くなると暖房のついていない洋式トイレの便座に座るのって勇気がいると思いませんか。その冷たさを知っているの座るときには気合入れて…、それでも座った瞬間“うっ！”やっぱりこれは心臓にも血圧にも悪い。座る前に、便座をトイレトペーパーでしっかり拭いて摩擦で温かくなるよう試みますが、毎回撃沈。思うように温かくは…。

◎季節の写真

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_371_12.pdf

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

Mail: gst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
